

先天性心疾患とは

お母さんのお腹の中で赤ちゃんの心臓ができるときに、何らかの原因で心臓の構造に異常ができると先天性心疾患になります。1000人の赤ちゃんのうち、およそ10人の割合で生まれてきます。心臓には、右心房、左心房、右心室、左心室という4つの部屋と4つの弁、肺動脈と大動脈という2つの大きな血管があります。異常が起こる場所や異常の起こり方によって、さまざまな病気の種類があります。症状は、顔や唇が紫色になる（チアノーゼ）、体中の酸素が不足して意識がなくなる（無酸素発作）、息がはあはあきれる（心不全）、脈が乱れる（不整脈）などがありますが、病気の種類や程度によって異なります。治療には、手術と薬の内服があります。手術は、生まれたばかりの時に行う場合、また成長や心臓の様子を見ながら行う場合があります。1回で終わる場合が多いのですが、何回かに分けて行う場合もあります。

Q&A

Q1：傷跡を気にするときはどうしたらよいですか

- A. 傷跡は治療をがんばった印であり、本来は隠さなくてはいけないものではありません。しかし、思春期にさしかかってくると、体育の授業の着替えや宿泊のお風呂の時に傷を他のお子さんに見られることを気にするようになることもあります。そのような場合には、着替える場所・修学旅行時のお風呂などに関して、本人と相談の上で配慮をお願いします。

